

韓国企業、営業益5割増

7～9月 電機・鉄鋼がけん引

【ソウル＝細川幸太郎】

韓国取引所が発表した国内上場企業の2021年7～9月期の連結業績集計によると、営業利益が前年同期比50%増えた。主要業種の電機や鉄鋼、自動車けん引役となった。世界経済がポストコロナで活発になるなか、輸出に強い韓国企業の増益基調が続く。

韓国取引所に上場する12月期決算の企業（金融

を除く）586社の業績

をまとめた。売上高は19%増の581兆円（約56兆円）、営業利益は50%増の53兆円だった。売上高営業利益率は9・1%で、1・9ポイント上昇した。

全17業種のうち、サムスン電子とLG電子、SKハイニックスを含む「電気電子」の増益額が最も大きかった。半導体メモリーや家電製品などの販売が好調で、営業利

益は42%増加した。

次に増益額が大きかったのは、ポスコや現代製鉄を含む「鉄鋼金属」で、営業利益は4倍に膨らんだ。ポスコは自動車用鋼板の値上がりなどで、四半期ベースで過去最高益を記録した。

素材価格の高騰によって「化学」の営業利益は70%増えた。自動車や造船を含む「運輸装備」の営業利益は4倍だった。

物流運賃の値上がりを背景に「運輸倉庫」の増益率は6倍を記録した。

大韓航空は貨物事業の好調が旅客事業の不振を補って収益を伸ばした。

一方で、資源・素材価格の高騰が収益減につながる業種もある。減益幅が最も大きい「電気ガス」は営業利益が3兆円減つ

た。建材や原材料価格の値上げによって建設業や食品も減益となった。